

第10回世界水フォーラム エキスポ  
日本パビリオンへの参加のご案内

【募集要項】



会期：2024年5月18日（土）～24日（金）  
開催地：インドネシア バリ島  
申込受付開始：2024年1月17日（水）10:30  
申込締め切り：2024年1月31日（水）17:00

## 世界最大の水会議・展示会で、技術や取り組みをアピールするチャンス！

世界水フォーラムは、3年に一度、世界中の水関係者が一堂に会し、地球上の水問題解決に向けた議論や展示などが行われる世界最大級の国際会議です。

来年2024年5月18日～24日、インドネシア、バリ島において開催され、会期中、国内外から多くの参加※2が見込まれております。 ※1：<https://worldwaterforum.org/>

※2：約1万7千人と主催者側より発表あり

そのような国際会議における展示会（水のエキスポ）において、日本パビリオンの出展が予定されています。日本パビリオンは、官民の参加団体・企業の皆様で構成します。日本パビリオンへの参加は、インドネシア及びアジア太平洋諸国を中心に、知名度の向上、製品や取り組みのPRの絶好の機会です。

皆様のご参加をお待ちしております。

<ご参考：これまでの世界水フォーラムの参加者数>

第6回（フランス）：173カ国 35,000人以上

第7回（韓国）：168カ国 40,000名以上

第8回（ブラジル）：172カ国 10,000人以上

（第9回（セネガル）はコロナ禍の開催であり、未発表）

## 目次

1. 第10回世界水フォーラム エキスポ概要 .....	2
2. 日本パビリオン概要.....	2
3. 日本パビリオンの位置と構成イメージ .....	4
4. 日本パビリオンへの参加のメリット .....	11
5. お申込み（会議までのスケジュール、及びお申込み方法） .....	12
6. キャンセルポリシー .....	14
7. お問い合わせ先 .....	15
8. 日本パビリオン参加規約 .....	16

## 1. 第10回世界水フォーラム概要

名称： The 10th World Water Forum

会期： 2024年5月18日（土）～24日（金）（予定）

開催地： インドネシア バリ島

会場： スサドゥアコンベンションセンター <https://baliconventioncenter.com/>

主催： 世界水会議（WWC）、インドネシア政府



### 開催地インドネシアの概要

・人口： 約 2.70 億人、面積： 約 192 万 km<sup>2</sup>、言語： インドネシア語、

1 人当たり名目 GDP： 4,349.5 米ドル （2021 年、出典： 外務省 HP）

### 全体日程：

日程		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
		5/18 (土)	5/19 (日)	5/20 (月)	5/21 (火)	5/22 (水)	5/23 (木)	5/24 (金)
時間帯	午前	登録			<b>第10回世界水フォーラム</b> 166セッション （全体会合、サイドイベント、進行イベント、特別セッション） テーマ別プロセス、地域別プロセス、政治プロセス			閉会式 ・各国ステートメント & 宣言 ・統合報告（政治、 地域、テーマ） ・第11回に向けて
	午後		開会式	テーマまとめ				視察ツアー
	夕方		歓迎ディナー	フェアウェル 文化イベント				
	終日		フェア及びエキスポ※ （※日本パビリオンを含む）					

## 2. 日本パビリオン概要

日本パビリオンでは、官民一体となったパビリオンを以下の通り開催する予定です。

期間： 2024年5月19日（日）～23日（木）

コンセプト： 日本パビリオンを含む世界水フォーラムの参画のコンセプトとして

以下の4点を柱と位置付けております。（詳細は別紙をご参照ください。）

- ① バンドン精神に基づく、グローバルサウスとの協力の軌跡と未来
- ② Water for All (すべての人へ水を) とともに Water by All (すべての人による水)
- ③ 次世代を担うユースの参画
- ④ 未来を照らす新技術

出展面積： 150 m<sup>2</sup>

出展内容： 水関連の技術・サービス(産業製品を含む)・取組み 等

## 活動事例：

### 日本パビリオンの活動

*Leading to Sustainable Life with Water*



第7回世界水フォーラムでは会期中、大邱広域市のEXCO内で展示会「EXPO&FAIR」が開かれ、日本国政府、地方自治体、団体、企業による日本パビリオンを設置しました。

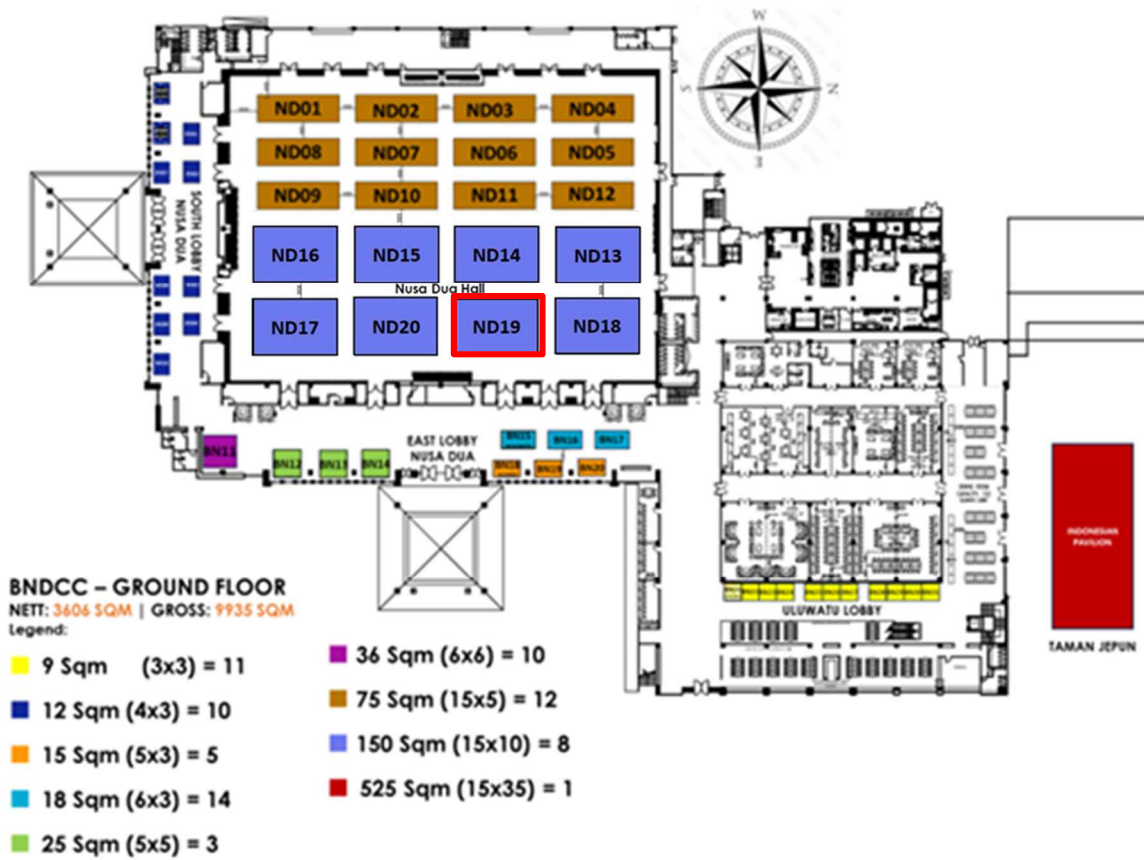
テーマは“Leading to Sustainable Life with Water”。健全な水循環の維持構築に向けた日本の国際貢献と多様な技術を、産官学民の区分けなく、出展者が一体となってアピールしました。



第7回（韓国）における日本パビリオンの様子


### 3.日本パビリオンの位置と構成イメージ

#### (1)日本パビリオンの位置 (ND 19)



#### (2)構成イメージ

○日本パビリオンロゴマーク：第7回世界水フォーラム時に作成した日本パビリオンロゴを継続。  
 全体デザインに活用

	<p>(解説)</p> <p>半円をずらして配置し、水面に広がる波紋を表現。伝統的浮世絵の波をアクセントとしてグラフィックに盛り込んだデザイン。          色味は、日本の伝統色、江戸紫で品のある落ち着いたカラーリング。</p>
---	---

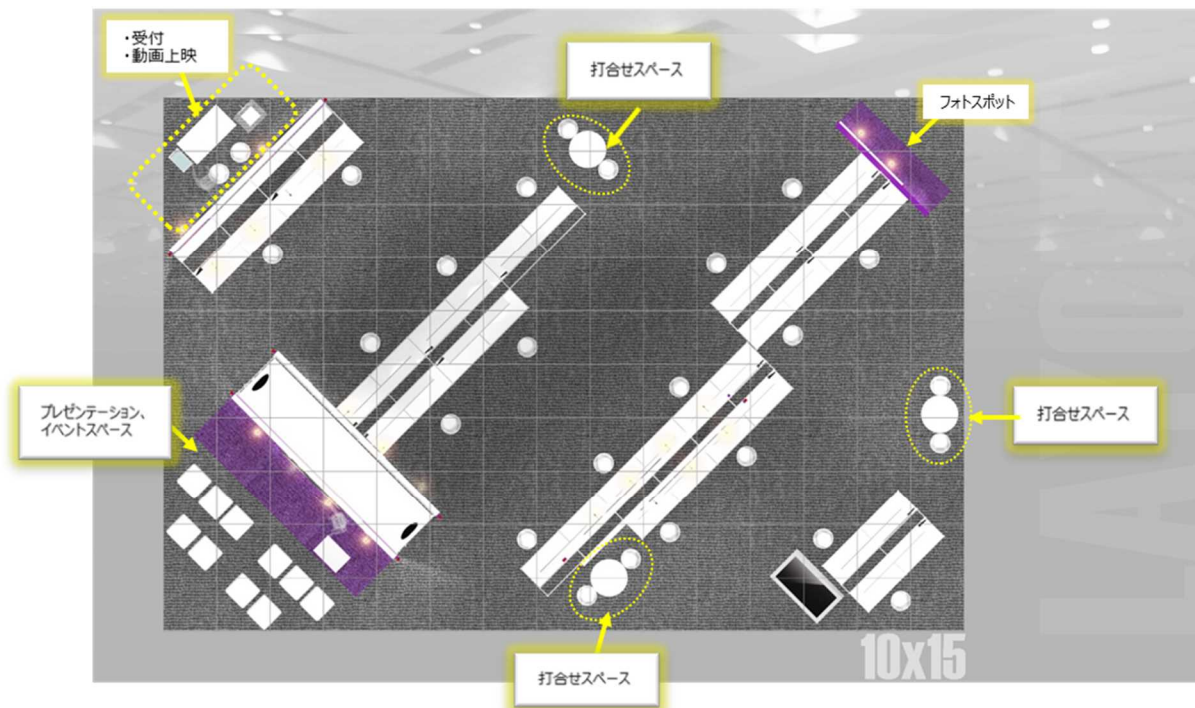


## ○日本パビリオンのレイアウトイメージ図

### <デザインの開放感・統一感>

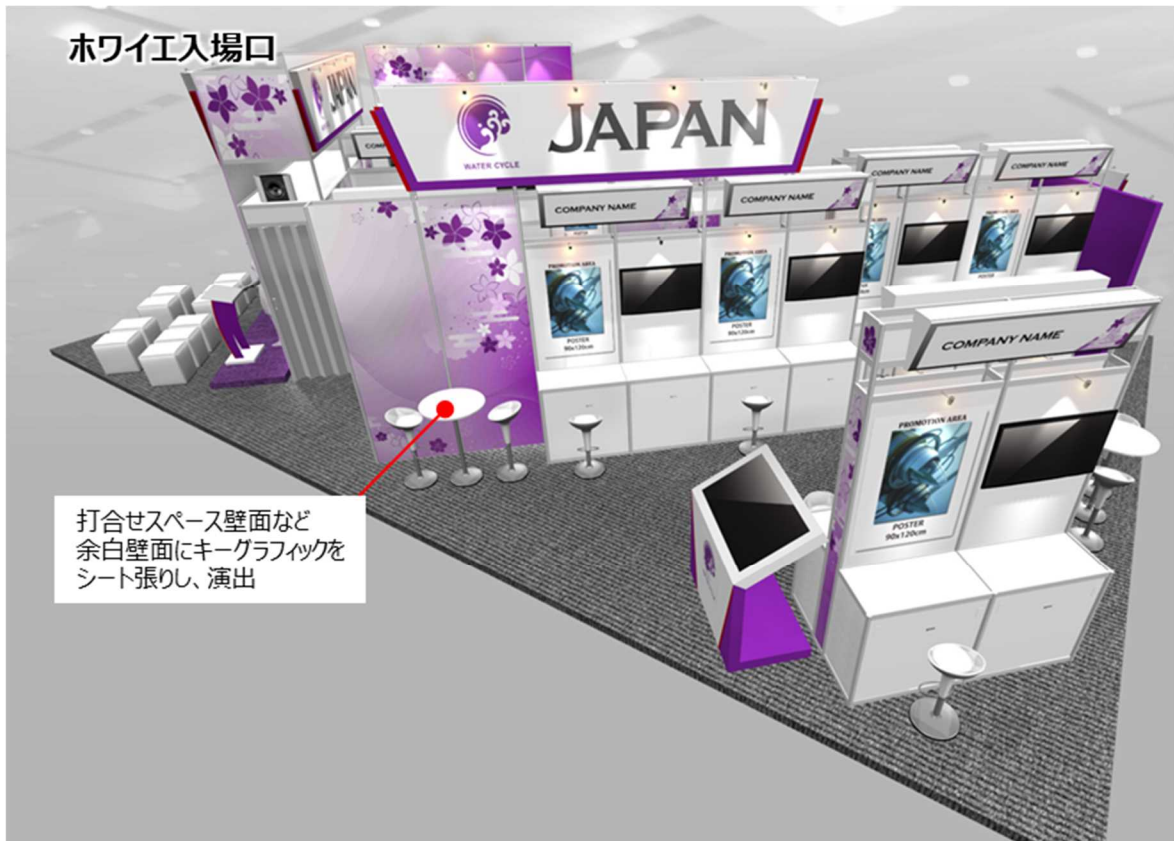
- ✓ 来場者に開かれたパビリオンとするため、壁を極力使用しないことで、来場者がパビリオン内に入り易いデザインとします。

※あくまでレイアウトの一例です。レイアウトは、応募状況を踏まえ、検討・調整して参ります。



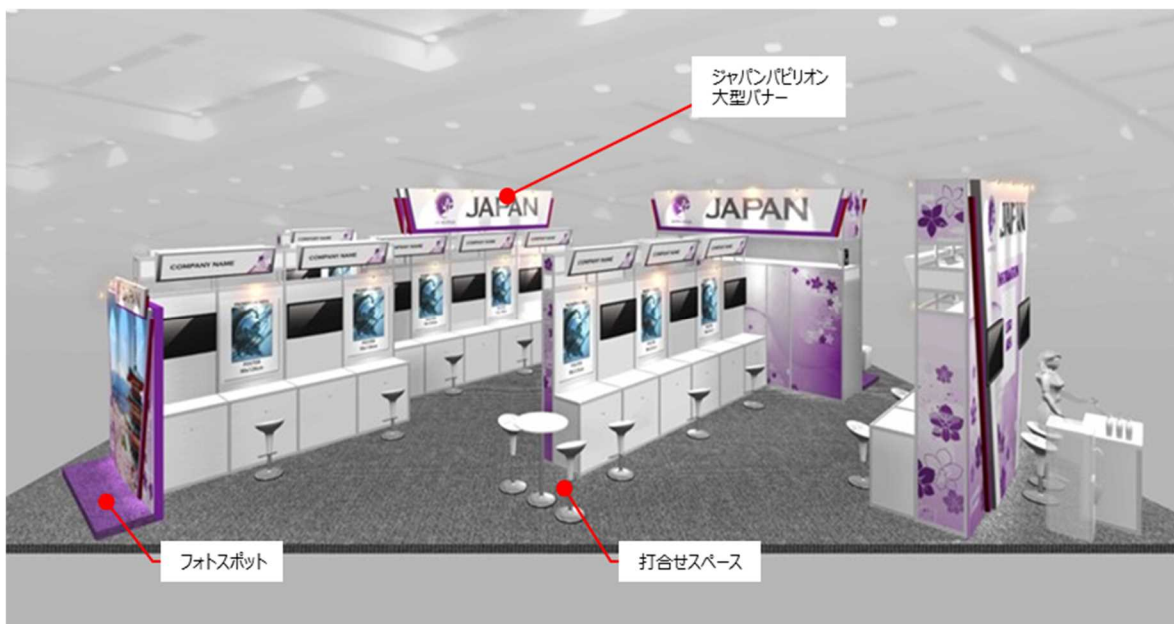
### ○日本パビリオンのブースデザインイメージ図①

※あくまで基本構成を示すためのイメージです。デザイン等は、今後検討して参ります。



### ○日本パビリオンのブースデザインイメージ図②

※あくまで基本構成を示すためのイメージです。デザイン等は、今後検討して参ります。



**募集内容サマリー：（税込み）**

**(1)常設展示：**

**（料金について）**

**【4㎡の場合】：1枠あたり、2,299,000円**

**【2㎡の場合】：1枠あたり、1,298,000円**

※ 1：共有スペース（商談スペース等）※の利用も可能とする予定です。

※通行の妨げにならない範囲で、周辺の通路等の利用含む

※ 2：共通設備として PPT 等投影用ディスプレイ、PC 接続用ケーブル、電源等を準備します。

**(2) 動画上映：**

**（料金について）**

**・1枠（10分の放送を1日2回以上）あたり、99,000円**

※ 1：1枠の応募で1日あたり2回以上上映するようプログラムを構成する予定ですが、上映回数を更に増やすよう検討しております。

※ 2：事務局が上映を担当いたします。現地出張ができない場合でも、出展いただけます。

**(3) イベント等スペース：**

**（料金について）**

**・1枠（30分×3コマ＝90分）あたり、249,700円**

※ 1：各コマは、時間をばらしての確保を想定していますが、連続して設定することも可能です。

いずれの場合も全体状況を鑑み事務局側で設定させていただきます。

※ 2：人通りの多い通路側に面したエリアにスペースを設ける予定です。

※ 3：基本的な映像・音響機器のご用意があります。

**(4) その他費用**

・デモ用の実機等の手配、及び輸送費は個々にご負担いただきます。

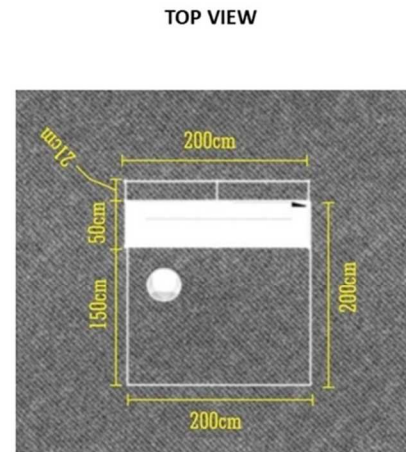
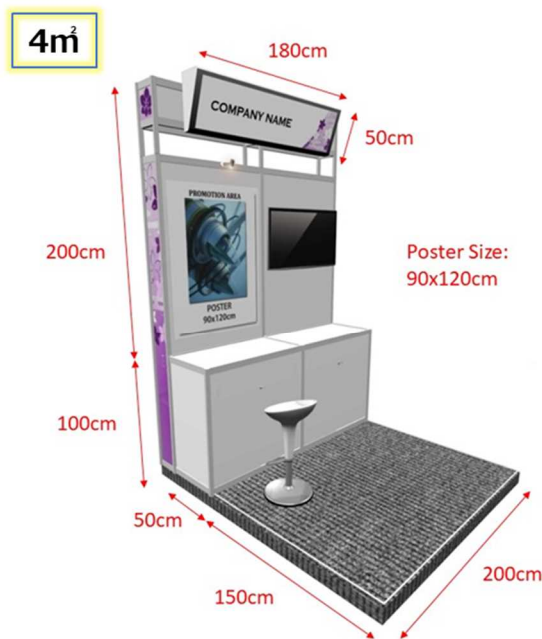
推奨の輸送業者等のご紹介は承ります。



**出展形態ごとの詳細説明：**

(1) 常設展示： ※あくまで基本構成を示すためのイメージです。デザイン等は、今後検討して参ります。

種類	常設展示 A	常設展示 B
条件	4㎡のエリア (実機・模型の展示ありを想定)	2㎡のエリア (実機・模型の展示なしを想定)
設備等 (共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示台</li> <li>・壁面 (基本的な装飾、社名・ロゴ等の表示、グラフィック)</li> <li>・スポットライト、ハイチェア、鍵付け収納</li> <li>・映像・PPT等投影用の映像ディスプレイ及びPC接続用ケーブル、電源</li> </ul>	



**2㎡**

2㎡の場合は、上記4㎡の場合の幅を2mから1mとした形状を想定しておりますが、応募状況等に応じて幅、奥行きを検討予定です。

(2) 動画上映 :

種類	動画上映
条件、設備等	<ul style="list-style-type: none"><li>・視認性の高い位置に大型モニターを設置。</li><li>・1枠10分程度 (3分尺映像 x 3種類の動画 = 1枠)</li><li>・上映する動画は各参加団体にて作成の上、ご提供いただきます。</li></ul>

※動画は、組織の紹介、技術等の紹介、どちらでも可です。

※使用言語は、英語等（字幕も可）を推奨します。

※会場の音環境の都合上、字幕入り（大き目）や短いテキストを活用した動画を推奨します

○動画上映スポット・受付のイメージ図

※あくまで基本構成を示すためのイメージです。デザイン等は、今後検討して参ります。



(3) イベント等スペース：

種類	イベント等スペース
条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計10㎡程度（観客席 1~2列程度）</li> <li>・通路に面した人通りの多い場所の全面（角地）に設置</li> <li>・1枠あたり30分程度（セミナー / シンポジウム / プレゼンテーション / パフォーマンス等）</li> </ul>
設備等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型映像ディスプレイ（またはスクリーン）及びPC接続用ケーブル、</li> <li>・演台、発表者用・観客用の椅子</li> <li>・マイク、スピーカー等の音響、照明</li> </ul>

○イベント等スペースのイメージ図

※あくまで基本構成を示すためのイメージです。デザイン等は、今後検討して参ります。



(4) その他の共有スペース等：

- ・受付では、飲料水の提供（準備・提供に必要な備品類を準備・手配）をおこなうとともに 出展団体ロゴ等の一覧表示、モニター等による各種案内の表示も行います。
- ・受け付では日本語に堪能なスタッフ（日尼/日英/日英尼）を複数名。配置します。
- ・打ち合わせに利用可能な共有のテーブル、椅子を設置します。

## 4.日本パビリオンへの参加のメリット

インドネシアを始めとする東南アジア地域、及び世界各国の関係者に日本の技術・経験をアピールする絶好の機会です。インドネシアは、長年、ODA等で協力体制を構築している国であり、現在の世界4位の数を誇る人口は、今後も増えることが見込まれております。又、首都移転に向けた準備も進められており、インフラの整備についても活発な状況です。

### <世界水フォーラム エキスポの特徴>

#### (1) 多数の来場者・来場者の質

- ✓ 水分野最大の国際会議に併催される展示会のため、非常に多数の水分野に関心・興味の高い来場者が見込まれます。
- ✓ 意思決定者など多くの人が立ち寄るため、情報発信の絶好の機会です。(エキスポ会場は、フォーラム本体の各会場と同じ建物の中に設置される予定です。)

#### (2) インドネシア・アジア太平洋諸国中心

- ✓ 開催地インドネシアをはじめ、特にアジア太平洋諸国から多くの来場が期待できます。

### <日本パビリオンの特徴>

#### (1) 高い集客力

- ✓ 官民が一体となってパビリオンを組織することで、高い集客力とネットワーキングの機会の増加が期待されます。
- ✓ 日本パビリオンはエキスポ会場入り口の好位置を確保しています。
- ✓ 会期前・会期中の広報により、来場を促進します。

#### (2) コストメリット

- ✓ 日本パビリオンでまとめて施工の申し込みをするため、個別の出展をオーダーするより、トータルのコスト効率が良いことが見込まれます。また、費用を抑えた小規模での出展が可能です。

#### (3) 負担軽減

- ✓ 施工業者をこちらで選定しているため、出展の申し込みやブースの装飾など、展示会への参加に伴う煩雑な手続きの負担を軽減することができます。

#### (4) アンケート実施

- ✓ 日本パビリオンのブースに関する印象、コンテンツ、サービスなどの来場者アンケートを実施し、成果の把握や次回以降の出展検討材料とすることが可能です。タブレット端末によるデジタルアンケートによる回収率と集計スピード向上で、効果的な調査を行います。

## 5.お申し込み（会期までのスケジュール 及びお申し込み方法）

---

### (1)会期までのスケジュール（予定）

現在、予定しているスケジュールは、以下の通りです。

- お申し込み期間： 2024年1月17日（水）10:30～1月31日（水）17:00
- 出展受諾通知、参加料ご請求書、参加承諾書の様式をJWFが発送：2024年2月前半（予定）
- 参加団体が参加承諾書に必要事項を記入、押印しJWFに返送する期限：2024年3月1日（金）17:00 必着
- 参加料お支払期限： 2024年4月末  
※期限に関して個別調整が必要な場合はご相談ください。
- 参加企業・団体向け事前説明会： 2024年4月（予定）

### (2)お申し込み方法

---

**ステップ①「参加申込書」** (Word) にご記入の上、下記までメールにてお送りください。

・メール送付先：[jwf-world10th@waterforum.jp](mailto:jwf-world10th@waterforum.jp)

※件名に、「パビリオン参加申込」とご明記ください。

\*\*\*\*\*

**申込受付開始：2024年1月17日（水）10:30**

**申込締め切り：2024年1月31日（水）17:00**

※ 基本的に先着順とさせていただきます。尚、お申し込みの数が予定数に達した場合は、締切日前でも募集を終了することがございます。

※ 申込書に記載された内容に変更がある場合は、書面にてご連絡願います。

※ また、申込締め切日を過ぎてから内容を変更される場合、その内容に応じられない場合も ございますので、予めご了承ください。

\*\*\*\*\*



**ステップ② 関係資料を以下の住所へご郵送ください。**

- ・後日、日本水フォーラムよりお送りする「参加承諾書」（印刷・捺印のもの）、
- ・会社案内やパンフレットなど、貴社・団体の取り組みがわかる資料

**締切日： 2024年3月1日（金） 17:00 必着**

**郵送先：** 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第2ビル 6階  
（特定非営利活動法人 日本水フォーラム内）  
第10回世界水フォーラム日本パビリオン担当（Tel：03-5645-8040）

**(3)参加料のお支払い**

---

お支払期限は、(1)のとおりです。

なお、お支払いのタイミング等、別途相談も可能ですので日本水フォーラムまでお問合せください。

## 6. キャンセルポリシー

参加者の自己都合により参加を取り消す場合は、捺印のある書面にてお知らせください。

解約料の発生時期と金額については、下表をご参照ください。

参加取り消し受付日	解約料
参加承諾書の受理日～2024年2月29日（木）	参加料の30%
2024年3月1日（金）～2024年3月28日（木）	参加料の50%
2024年3月29日（金）以降	参加料の100%

	1月	2月	3月	4月
お申込み期間 (参加社)	1/17 1/31			
出展受託通知の発送 (JWF)	}	2月上旬		
参加料ご請求書の発送 (JWF)				
参加承諾書を発送 (JWF)				
参加承諾書を返送 (参加社)			~3/1	
参加料お支払い期限 (参加社)				4/30
事前説明会 (JWF)				4月（日程未定）
		解約料： 30%	50%	100%

## 7.お問合せ先

---

日本水フォーラム日本パビリオン担当

E-mail: [jwf-world10th@waterforum.jp](mailto:jwf-world10th@waterforum.jp)

- その他、世界水フォーラムに関する問い合わせなど  
特定非営利活動法人 日本水フォーラム 担当：浅井、福田、天野、常宗  
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第2ビル6階

以下には重要な情報が記載されております。お申込みの前にご確認ください。  
ご確認いただけましたら、申込書上の該当する欄にチェックをご記入ください。

## 日本パビリオン参加規約

### 1. 規約の履行

本パビリオンにおいて展示等を行う企業・団体等（以下、「参加社」という。）は、以下に記載する各規定、「日本パビリオン事務局（特定非営利活動法人日本水フォーラム）（以下、「事務局」という。）から提示される「参加者マニュアル」の記載事項、世界水フォーラム主催者による規定、およびその他関連法令等を遵守しなくてはなりません。これらに違反した場合もしくは第三者への迷惑行為、公序良俗に反する行為があると事務局が判断した場合、事務局は参加申込の拒否、参加契約の解約、小間・展示物・装飾物の撤去・変更の指示を、それぞれ行うことができるものとします。その際、参加社から事前に支払われた費用の返還、参加契約の解約、または小間・展示物・装飾物の撤去・変更によって生じた参加社および関係者の損害について主催者は一切補償しないと、事務局に損害があった場合には、当該参加社にその全額を賠償していただきます。

また、参加社が暴力団・暴力団関係団体及びその関係者もしくはその他反社会的勢力であると判明したとき、または反社会的勢力を利用していることが判明したときは、参加をお断りします。これらの場合、事務局は、参加社に対して参加料金相当額を違約金として請求することができるものとします。

### 2. 参加資格

参加社は、事務局が定める本パビリオンのコンセプトに沿う取り組み、製品またはサービス等を提供する企業・団体その他の事業体に限定され、事務局はその取り組み、製品またはサービス等が、本パビリオン趣旨に合致するか否かを決定する権利を有します。なお、展示物等が本パビリオンの趣旨にそぐわないと事務局が判断した場合には、該当の展示物等をお断りする場合があります。この場合、参加料金の返還はいたしません。

### 3. 参加社名

参加申込書及び参加承諾書に記入された参加社名は、本パビリオンの告知広告、公式 Web サイト、公式ガイドなどに掲載される場合がありますので、必ず正式社名（または団体名）をご記入ください。

### 4. 出展位置・映像時間割の決定

出展位置・映像時間割は、参加契約日、出展規模、出展・映像内容、過去の出展実績等を考慮のうえ事務局が決定し、発表いたします。事務局は、なるべく参加社の意向を尊重するよう努めますが、必ずしもすべての意向を反映させることができないことをご了承いただきます。

### 5. 参加契約の成立

参加社が参加承諾書を提出し、事務局がそれを受理した日をもって、参加契約の成立とします。所定の期日までに参加承諾書の提出がない場合、参加申し込みを取り消します。

### 6. 参加料金の支払

参加社は、請求書に記載された期限までに、請求された参加料金全額を事務局の指定する銀行口座へ振り込むものとします。参加料金のお振り込みに要する一切の手数料は、参加社のご負担となります。支払期日までに参加料金全額のお振り込みが確認できない場合は、参加契約は当然に解約となります。この場合、事務局に損害がある場合には、参加社は、その全損害を賠償するものとします。参加料金は、各出展形態にかかる所定のスペース、設備およびサービス等の利用の対価となります。一部のスペース、設備またはサービス等を利用しない場合でも、料金は同一となります。

### 7. 参加契約の解約

参加社が参加契約成立後にその全部または一部を解約する場合は、必ず文書にて行わなければなりません。その際、参加社には、募集要項に記載のある「キャンセルポリシー」に従い、解約料をお支払いいただき、別途その損害を賠償していただきます。

上記の解約料および賠償金は、請求書に記載された期限までに指定銀行口座へ振り込むものとします。

## 8. 転貸の禁止

参加社は事務局の許可なく、申し込みされた内容の全部または一部を他社へ譲渡、貸与、交換等（譲渡料、貸与料等の有無を問わず）を行うことはできません。

## 9. 出展の中止

事務局は、やむを得ない事情により、いつでも日本パビリオンの全部または一部を中止することができるものとします。この場合、事務局は、参加社に対して、開催中止となった部分の割合（一部中止の場合）および開催残余日数等を基準として、事務局が相当と認める額を参加社に払い戻しますが、それ以外には、一切の責任を負うことができません。事務局の都合以外の理由により日本パビリオンの全部、または一部が中止になった場合（事務局が中止せざるを得ないと判断した場合を含みます）には、事務局は参加社に対し、一切の責任を負いません。

## 10. 損害賠償責任

事務局は、理由の如何を問わず、参加社及びその関係者が、会場を使用して出展することを通じて被った人身及び財物に対する傷害・損害等、および参加社の展示品等の損傷・滅失・盗難等（輸送時含む）に対して一切の責任を負いません。また参加社は、その従業員、代理人、関係者の故意、過失または無過失によって、会場の施設及びその設備等や、第三者の人身・財物に与えた一切の損害について、ただちにその損害を賠償しなければなりません。

事務局が、これらの損害の賠償請求を受けた場合、参加社は、自らの責任で、その支払いを行うと共に、事務局に損害が生じた場合には、弁護士に支払った着手金・報酬金等も含め、その全額を速やかに、事務局に支払うものとします。

事務局は、世界水フォーラムの主催者及びエキスポ会場側の都合による、場所・日時の変更およびパビリオンの設置の遅れ等にもなう損害については一切の責任を負わないものとします。また、事務局は、本パビリオンにおける一切の制作物の中に生じた誤字、脱字等に関する責任を負わないものとします。

## 11. 搬入と搬出・撤去

参加社は、事務局が提供する「参加者マニュアル」に規定された期間内に装飾、展示品等の搬入を行い、展示会の開催までにすべての装飾を完成させるものとします。また参加社は、すべての展示品及び装飾物の搬出・撤去を「参加者マニュアル」に規定された期間内に完了するものとします。

これらの期間内に作業を完了させることができず、事務局及び関係者に損害が生じた場合、参加社は、それによって事務局及び関係者に生じた全損害を賠償するものとします。

なお、エキスポの最終日の終了時刻以前の撤収は認められません。

## 12. 展示規定

参加社は、装飾方法、展示方法等に関し、事務局の指示および事務局が提供する「参加者マニュアル」に従わなければなりません。

参加社は、会期中は事務局からの連絡を受けることのできる体制・手段を整えるものとします。

参加社は、自社の展示が他の参加社などの妨げにならないようにしなければなりません。万一、他の参加社とトラブル等があった場合には、事務局が「参加者マニュアル」の規定をもとに妨害、違反の有無の判断をし、参加社はこの判断に従うものとします。

外国為替および外国貿易法等、国内法令に定めのある展示物については、参加社の責任において事前に許可等を取得するものとします。

※経済産業省ウェブサイト <https://www.meti.go.jp/policy/anpo/>を参照ください。

## 13. 防火保安

参加社は、会場に適用される防火および安全にかかわるすべての法規、規則を厳守しなければなりません。

## 14. 写真・ビデオ撮影

基本的に、事務局は参加社に対して本パビリオンにおける写真・ビデオ撮影等を許可する権利を有するものとしますが、詳細は別途、定めます。

## 15. 個人情報の取り扱い

参加社は、本パビリオンを通じて個人情報を取得する場合、個人情報保護法および関連法令を遵守し、適法かつ適切な取得をおこなう必要があります。利用目的は必ず公表・通知し、その範囲内で利用しなければなりません。また取得した個人情報は、参加社が責任をもって管理・運用するものとします。万



一、来場者に損害が生じた場合、参加社が全責任を負うと共に、自ら責任を持って紛争を解決するものとする。  
運営、施工、電気等の委託会社には業務上の理由により参加社の情報を事務局から提供いたします。ご了承ください。

## WWF10 の日本パビリオンのコンセプト

WWF10 に向けたパビリオン等の日本のパビリオンのコンセプトとして、以下の4つの柱を想定いたします。

### ① バンドン精神に基づく、グローバルサウスとの協力の軌跡と未来

- WWF10 において、バンドン精神を水の議論に取り入れるべく、バンドン精神水サミットが開催される見込みです。バンドン会議<sup>※</sup>から70年近く経ち、インドネシアなどと共に歩んだ水分野の協力を振り返りつつ、バンドン精神に基づいた、今後のグローバルサウスの協力を考える契機とします。

※バンドン会議について

- 1955年4月、アジア地域を中心とする新興独立国の地位が脆弱であったことから、相互の連帯を図るため、インドネシアなどの5ヶ国の主催によりアジア・アフリカ会議が開催され、日本を含むアジア・アフリカの29か国・地域が参加した。会議では、多様性に対する相互理解、敬意、寛容に基づく「バンドン精神」を基に、「基本的人権、国連憲章の諸目的及び原則の尊重」、「正義と国際義務の尊重」などからなる「バンドン10原則」が採択された。同会議は日本の戦後の国際社会復帰とグローバルサウスとの関係構築の一つの重要な契機となった。

例：これまでのグローバルサウスへの日本の協力、バンドン精神に基づき、共に歩んだ日尼等の協力（砂防技術センター、ブランタス川流域開発、バリ海岸事業などODA交流、技術協力（官民とわず））等

### ② Water for All (すべての人へ水を) とともに Water by All (すべての人による水)

- 水分野では、2015年にSDG6 (Ensure access to water and sanitation for all) をはじめとする目標の達成に向けて、各国動いているところであり、特に途上国においては、Water for All は重要なキーワードのひとつとなっております。
- 他方、日本は、水防災の面において、あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の本格的展開がなされ、利水の面においても、流域のあらゆる関係者が水に関して一体的に取り組む、総合的な水のマネジメントへの政策展開を目指しているところです。また法制度においても、水循環基本法を制定し、流域の様々な主体が連携・協力して、流域水循環計画を策定し、健全な水循環の維持又は回復のための施策を推進する流域マネジメントの全国展開を図っているところであり、水問題に関するあらゆる課題に対して“by All”の考え方で対応しているところでもあります。
- これらの視点については、第4回アジア・太平洋水サミット、国連水会議2023などでも訴えており、WWF10においても、このような日本の取組を紹介、共有しつつ、Water for All とともに Water by All という考えを海外にも広めていきます。

例：流域治水、流域水循環に関する我が国の取り組み状況。Water by All を体現するよ  
うな多様な主体による取組（自治体、民間企業等含め） 等

### ③ 次世代を担うユースの参画

- 大規模洪水への対応、水の確保、適切な水利用等、水に関するあらゆる課題の解決に向けた議論は、未来に向けた議論であり、次の世代の意見が極めて重要であり、ユースの参画を積極的に進めることが重要です。
- 日本においても、第 4 回アジア・太平洋サミットを契機に、ユース水フォーラムが立ち上がり、本年 11 月にも日本・インドネシア・韓国の高校生などが集まり意見交換などを行うなど、水分野のユースの取組が拡大しているところであることから、我が国におけるユースの取り組みを紹介するとともに、ユース間の各国交流を促進していきます。

例：次世代を担うユースの取組事例、各国とのユース交流 等

### ④ 未来を照らす新技術

- 洪水への対応、安全で安定的な水の確保等、水に関する様々な課題について、日本では制度面のみならず、民間企業においてさまざまな技術開発を行うなどにより対応してきました。
- これまでに進められてきた日本における民間企業等による先進的な技術は、今後の世界の水問題に対する解決に向け極めて有益であると考えられることから、日本パビリオンにおいて積極的に発信していきます。

例：気候変動対策、基礎的生活環境の改善などに向けた新技術、災害等への対応のための情報発信、センサー技術、水の浄化、海水淡水化等に関する技術 等